

安心安全を ささえる 検査制度

VBの抗ウイルス・抗菌効果は科学的に認められたものですが、VBが正しく使用されていないと、その効果は発揮されません。そこで、これまでメーカーとして取り組んできた「製造品質」の徹底を一步進め、消費者が手にする時の「市場品質」を確かなものにするため、第三者の検査機関を組み込んだ制度を導入しています。

VB使用事業者（=VBパートナー企業）に義務付けられる「VBベーシック検査」と、任意による「VBアドバンス検査」の2つの検査を通じて、VBを使用する側にたった安心安全な品質管理を行い、流通するVB製品の品質向上に努めていきます。

VBベーシック検査とは？

製造環境を評価し、そこで製造された製品にVBが正しく含まれているかを判定する検査です。製品に含まれているVBの含有量が基準値を満たして初めて、VBの抗ウイルス・抗菌効果が発揮されるため、VBを導入する上での必須検査となります。

VBベーシック検査の結果が基準値を満たさない場合は、再ヒアリングを行い、改善等を経て、再検査を実施するなど、一連のサポートを行います。

検査方法

検査のために提出された全ての検体に対して、塩化ニッケル、ニオキシムによる発色法を用いて、PHMBの検出定量測定を行います。各検体より検出されたPHMB測定値が基準値を満たしているかを検査します。

検査の時期と有効期限

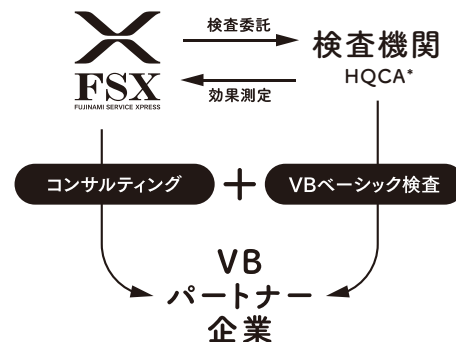
検査の時期：ご契約前（新規）、
および導入後年1回実施（毎年2月）
費用：5,000円（税別）

市場品質の徹底を支えるVBの体制

市場品質の徹底を支えるために、コンサルティングおよび検査体制を構築しています。

VBの効果を適正に発揮するため、最新の技術・ノウハウをVBパートナー企業と共有する「コンサルティング」と、専門的知見を持つ第三者の検査機関である衛生品質協会（HQCA）*に委託し、客観的な視点を持って効果の測定を行う「VBベーシック検査（定期検査）」を基本としています。

*検査機関：一般社団法人生物活性研究機構 内 衛生品質協会（HQCA）



VBアドバンス検査とは？

製品に対して、抗ウイルス・抗菌効果が働いているかをより詳細に調べる任意の検査です。検査項目はインフルエンザウイルスとヘルペスウイルスの検出の有無、および一般細菌の生菌数とカビ増殖の有無となります。

VBアドバンス検査は、製品の「品質」や「効果」といった目に見えない衛生を、化学的な判定をもとに「目に見える衛生」に変える検査です。

検査方法

検査のために提出された全ての検体に対して、インフルエンザウイルス（RNA）、ヘルペスウイルス（DNA）、一般細菌、カビへのVBによる効果を検査します。

▷ インフルエンザウイルス・ヘルペスウイルス

定量PCR法によりウイルス遺伝子の有無の確認を行います。特異的な遺伝子配列部位を定量的に検出し、陽性対照との比較により、ウイルス遺伝子が存在していたかを判定する検査です。

▷ 一般細菌・カビ

平板培養法により、一般細菌の生菌数とカビ増殖の有無の確認を行います。一般細菌については35±1℃で48±2時間培養し、カビについては25℃で5日間培養を行い、1平板当たりの出現集落から生菌数を算出し、カビの有無を確認する検査です。

検査の時期

検査の時期：毎年9月実施（任意による検査）
費用：80,000円（税別）